

長い時間をかけて、自然と調和した
人の営みがつくりあげた里山里海

農林漁業によりもたらされる多くのめぐみ、
守り伝えられてきた祭礼や伝統技術、
美しい景観、豊かな生きもののつながり……
「能登の里山里海」で育まれる四季の暮らし、
そのもの、すべて—それが、世界農業遺産

能登の里山里海

世界農業遺産



文化・祭礼

夏から秋にかけて豊漁や豊作を祈願して行われる「キリコ祭り」をはじめ、ユネスコの無形文化遺産にも登録された農耕儀礼「あえのこと」など、農林水産業と密接に結び付いた文化・祭礼が各地に継承されています。



優れた里山景観

日本海に面した急傾斜地に広がる「白米千枚田」をはじめとした棚田や「間垣」と呼ばれる竹の垣根、茅葺きや白壁・黒瓦の家並みなどは、日本の農山漁村の原風景とも表現される景観です。



Noto's
Satoyama and
Satoumi

里山里海の利用保全活動

「能登の里山里海」を未来へ引き継ぐため、棚田のオーナー制度や農家民宿、農林水産物のブランド化、多様な主体による生業創出の取組、行政と大学が連携した人材育成などが進められています。



世界農業遺産

世界農業遺産(Globally Important Agricultural Heritage Systems(GIAHS): ジアス)は、その土地の環境を生かした伝統的な農業・農法や生物多様性が守られた土地利用、農村文化・農村景観などが一体となり維持・保全がはかられている世界的に重要な地域を後世に引き継ぐことを目的として、2002年(平成14年)、国連食糧農業機関(FAO)により創設されました。

「能登の里山里海」世界農業遺産活用実行委員会

世界農業遺産の認定を活用して「能登の里山里海」を未来へ引き継ぐための取組を行っています。構成: 石川県、七尾市、輪島市、珠洲市、羽咋市、志賀町、宝達志水町、中能登町、穴水町、能登町、農林漁業・商工・観光団体

Ishikawa
Prefecture

<http://www.pref.ishikawa.jp/satoyama/noto-giahs/index.html>

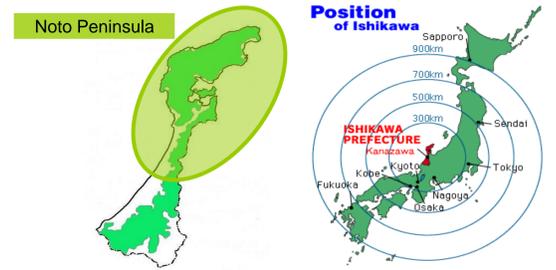
能登の里山里海ポータル 検索

「能登の里山里海」の概要

「能登の里山里海」は2011年に日本で初めてFAOから世界農業遺産(GIAHS)に認定された。

「能登の里山里海」の評価された点

- 生物多様性が守られた伝統的な農林漁法と土地利用
- 優れた里山景観
- 里山里海に育まれた多様な生物資源
- 長い歴史の中で育まれた農耕にまつわる文化・祭礼
- 伝えていくべき伝統的な技術
- 里山里海の利用保全活動



いしかわ世界農業遺産国際貢献プログラム

石川県は、FAO、UNU-IAS、金沢大学、石川県立大学、JICAと連携し、開発途上国の持続可能な発展に資するため、①世界農業遺産の申請支援や、②地域振興を目指す国々のための能力開発研修を行う「いしかわ世界農業遺産国際貢献プログラム」を提供しています。

- 2010年以来、約60カ国以上から400名以上の研修員を受入れ
- 研修内容は、参加者の希望に応じてカスタマイズ可能
- 開発途上国が抱える個別の問題に有識者が回答
- 石川県内の研修費用の一部を石川県が負担（要協議）

<研修コース（例）> 世界農業遺産応用コース：里山里海を活用した地域振興（研修期間：4日間）

座学（1日間）

- UNU-IAS-OUIKによるGIAHSの利用・目的や「能登の里山里海」の紹介

現地視察(2日間)

世界農業遺産認定地域を訪問し、里山の利活用、地域振興の取組を視察

- 生計の維持・生業の創出
- 伝統技術の継承
- 環境や景観の保全
- 人材育成

その他(一部を下に示す)

- 白米千枚田**
• オーナー制度による景観保全
• 耕作放棄地の解消
- 海女漁**
• 伝統漁法
- 輪島塗工房**
• 伝統工芸の新商品開発
• 海外への販路拡大
- 道の駅のと千里浜**
• 地元農産物の加工販売
• 駆除した害獣の肉の活用
- 揚げ浜式製塩**
• 伝統技術
- 製炭工場**
• 森林管理による生態系保全
• 高付加価値商品の開発
- 能登学舎**
• 地域振興に貢献する次世代人材の育成
- 農耕儀礼「あえのこと」**
• 観光客への実演
- 若手農業者のブルーベリー農園**
• 地元農産物を使った新商品開発
- 農家民宿群「春蘭の里」**
• 過疎地での交流人口・定住人口の増加の目指すビジネス
- ボラ待ちやぐら**
• 伝統漁法の復活
• 伝統漁法による漁獲物のブランド化

課題演習（1日間）

- 研修員が自国の世界農業遺産候補や地域振興策をプレゼン
- 有識者（国連大学教授、地元自治体職員等）が、具体的なアドバイスや意見を提供



帰国後のフォローアップ

- 研修員の帰国後も、新たな課題について専門的な助言を継続